



令和5年10月31日(火) 晴 No. 16

## 星を生み出そう



▲会長挨拶



▲瀧川会員卓話

### 会長の時間

会長 釜谷 和明

皆さんこんにちは。

先週、10月最後の例会と挨拶させて頂きましたが、本日31日をすっかり忘れておりました。大変失礼しました。本日が10月の最終例会です。よろしくお願いします。

先日、27日にプロバスクラブ創立30周年に吉田幹事、前川真一郎社会奉仕委員長と参加させて頂きました。全員で11名の会でしたので、参加者皆様のお話しを聞く事が出来ましたが、さすがに豊かな経験と能力を持たれた方々の集まりですので、参加させて頂いた我々は大変勉強になりました。毎年、合同例会では中々そこまでのお話しをする機会がないと思いますので、何か今までとは違った交流機会があれば、我々も勉強になりますし、プロバスクラブさんの会員増強にも役立つのではないかと思います。来月、合同例会が行われます。是非皆様には積極的に交流して頂ければと思います。

地区のセミナーですが、28日土曜日にロータリー財団・国際奉仕合同セミナーが行われ、竹位ロータリー財団委員長、下山会員、植田会員にご参加頂きました。ありがとうございました。その中で、「Every Rotarian Every Year」クラブと「100%ロータリー財団寄付クラブ」の表彰を受けました事をご報告させて頂きます。これまでの会員各位の日頃の活動の一つが認められた結果だと思っております。ありがとうございました。

さて、先日の例会後に行われました70周年実行委員会第1回正副部会長会議兼歴代会長会議に関してご報告させて頂きたいと思っております。

歴代会長の意見を特にお聞きしたのは、75周年をどの様に考えるかという点です。

西宮と神戸がこの地区では75周年を終えているわけですが、それぞれの考え方でやっておられ、また、時代背景もあり、「こうしなければならぬ」と言った正解はないようです。ご意見も、75という数字の大切さを考える方もいらっしゃいますし、日本的な10年刻みの大切さを考える方もいらっしゃいます。

元々、70周年を50周年と同じように考えてスタートしているわけではありませんので、今の加古川らしい、コンパクトな70周年を考えればと思います。

75周年を縛ることなく、その時の社会情勢も考え、その時の会長、理事会のお考えにお任せできたらと思っております。



☆ 欠 席 者 省略

☆ 前 々 週 会員数 73 名 出席 41 名 出席免除 19 名 欠席 13 名

☆ メークアップ ロータリー財団・国際奉仕合同セミナー 10/28 竹位、下山、植田

### 親睦活動委員会

例会場当番

11月 7日(火) 藤本光、古庄

11月 18日(土) 橋本直・長谷川昌



### プログラム委員会

本日10月31日(火)	11月7日(火)	11月14日(火)	11月21日(火)
卓話 「滝川工業(株)の 事業紹介」 瀧川担当	新会員 自己紹介 中村担当	例会変更 (日時・場所変更) 親睦旅行 18日～19日(土日) 行先;徳島県 親睦活動委員会 担当	フォーラム ゲスト卓話 地区 ロータリー財団委員会 ロータリーカード推進小委員会 委員長 喜多 美雄氏 ロータリー財団委員会 担当

## 11月のおよろこび

- ◆ 誕 生 日 祝 省略
- ◆ 結 婚 記 念 日 祝
- ◆ 出 席 表 彰
- ◆ 会 社 創 立 記 念 日

### ポリオ根絶のためにペンを執る

#### 犯罪小説の短編集を出版してポリオ根絶への資金を集める

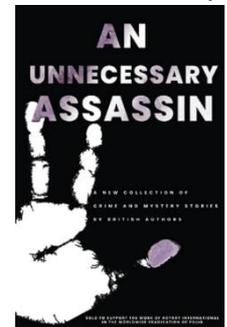
ロレイン・スティーブンスさんには、動機も手段もありました。必要なのは、「ポリオ根絶の活動資金を募るためにオリジナルの犯罪小説の短編集を出版する」ための共犯者だけでした。

短編集というアイデアは、昨年、英国ヨークシャーで開かれた文学フェスティバルで思いつきました(この短編集は2023年7月に『An Unnecessary Assassin』という題で出版)。最近に英国でポリオウイルスが検知されたことに憂慮したスティーブンスさんが、それについて友人と話しているときでした。

「ロンドン下水道でポリオウイルスが見つかったことに、私は動揺していました」とスティーブンスさん(スカンソープ・ロータリークラブ会員)は言います。「ポリオがまだ存在すると知っていましたが、まさかこんな近くで見つかるとは思っていませんでした。作家である友人にその話をしたところ、『あなたには作家の知り合いが大勢いるんだから、短編集を作ってチャリティで販売したら?』と勧められたのです」

犯罪小説フェスティバルの常連だった元司書のスティーブンスさんは、早速、

文: Etelka Lehoczky



犯罪小説の短編集『An Unnecessary Assassin』の表紙。販売収益はポリオ根絶のために寄付されます。

短編小説を寄稿するよう知り合いの作家たちに声をかけました。その呼びかけに最初に応えたのは、歴史ミステリーシリーズで著名な作家、デイビッド・ペニーさんでした。ペニーさんはポリオ根絶にも熱心でした。

ペニーさんはこう言います。「1950年代にウェールズで育った私の世代にとって、ポリオは身近なものです。当時、まだワクチンがなく、ポリオはいたるところに蔓延していました。私はまだ6、7歳でしたが、常にポリオと隣合わせでした。脚ギブスや『鉄の肺』を使っている人、ポリオで亡くなった人を何人か知っていましたから。あの記憶が消えることはありません。恐怖心として焼き付いてしまっているんです」

スティーブンスさんは、ペニーさんの協力を得てさまざまな短編小説を集め、AmazonのPOD(プリント・オンデマンド)を使って自己出版しました。二人にとってうれしかったのは、寄稿された短編の中に、ポリオが絡むストーリーがあったことです。G.L. Waringのペンネームで執筆活動をしているジェラリン・イングラムさんは、ワクチン拒否者や傲慢な医師たちへの怒りをストーリーに込めました。元小児科看護師であるイングラムさんが執筆した短編小説『It Takes Three Drops』に登場する悪役は、自身が過去に出会った医者たちをモデルにしています。

「自分は何でも知っていて、自分の意見だけが正しいと思っている医者もいます」とイングラムさん。「ストーリーに登場する医者も、自分を神であるかのように考え、女性が自分と同じ、または自分よりも優れた能力を持ちうるとは考えていません」

作家アン・クリーヴスさんとリー・チャイルドさんが寄稿した短編も注目に値します。クリーヴスさんによる『The Habit of Silence』は、著名な図書館を舞台とする探偵小説。チャイルドさんによる『Safe Enough』は、郊外で建設工事に携わる請負人が、その土地の前の所有者のストーカーになるというサスペンスで、労働階級を苦しめる経済的・政治的要因への批判も織り交ぜています。このほかにも、さまざまな題材の短編が含まれています。クリス・マクジョージさんによる『Box』は、海中250メートルのガラスの箱の中で起きるミステリー。ロバート・スクラッグさんによる『Revenge is Best Served Hot』とF.D.クインさんによる『Best Served Cold』は、いずれもグルメにまつわる犯罪小説。ジュディス・オライリーさんによる『A Face for Murder』は、YouTubeのメーキャップチュートリアルへの皮肉を交えた犯人探しミステリーです。

ペニーさんはこう言います。「同じような話ばかりでは面白くありません。この短編集には、ユーモアのあるストーリーもあれば、感動的なストーリーもあります」

ペニーさんが「DG ペニー」のペンネームで寄稿した小説『Drive By』は、自身がここ数年温めていたアイデアを基に執筆しました。正しいことを貫いたら、どんな結果になるのか？この物語の主人公は人身売買の犠牲者を守ろうとしますが、後にそれを後悔することになる、というストーリーです。

この短編集『An Unnecessary Assassin』には、二編の詩も含まれています。犯罪小説の短編集では珍しいですが、これらの詩がこの本とポリオとのつながりを強めています。『Surviving Relations』と題するジム・テイラーさんの詩は、幼少時にポリオに罹患した男性について詠んだものです。「もう彼が走ることはない。それでも、彼はしたいことをする。彼の目を見よ。まっすぐに見返してくるだろう」

この本の表紙には、ポリオを連想させるデザインが使われています。背景には、集団予防接種でポリオワクチンを受けた子どもの指につけるインクの色、紫色が使われています。また、題名となっている『An Unnecessary Assassin』(不必要な殺し屋)は、ポリオがワクチンで予防可能であることを示しています。

「いろんなアイデアを思いつき、題名の候補が10以上ありました」とペニーさん。「韻を踏んでいるところがよかったので、この題名を選びました」

この本は [Amazon からペーパーバックと Kindle](#) で購入できます。スティーブンスさんは、ロータリークラブの例会や英国中の犯罪小説フェスティバルでも、この本を販売してきました。現在までに3,000米ドル以上の収益を上げており、これにビル&メリンダ・ゲイツ財団から2倍の寄付が上乘せされます。

ペニーさんはこう言います。「『An Unnecessary Assassin』という言葉がすべてを表しています。ポリオは、子どもに予防接種するための十分な資金さえあれば、完全に予防が可能なのです」